(3) 人口動態分析

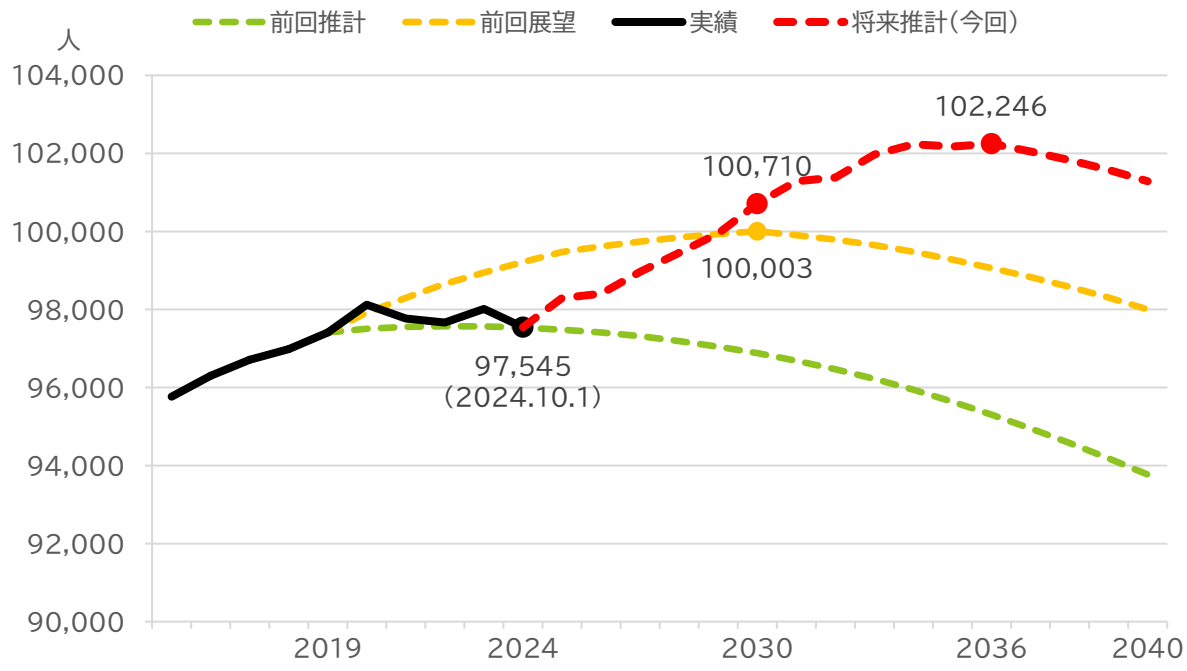
Rapidus 立地に伴う人口増加効果を踏まえて総人口を推計したところ、本市は令和 18 年(2036 年)にピークを迎え、102,246 人まで増加する推計となりました。

本市では令和 2 年(2020 年)に「千歳市人口ビジョン(改訂版)」を策定しており、客観的な指標に基づき算出した「推計値」と、目指すべき方向性を踏まえた目標である「展望値」を設定しています。

新型コロナウイルス感染症による移動制限や行動変容の影響から令和 6 年(2024 年)10 月 1 日時点の人口は展望値を下回っていますが、今回新たに試算した推計(以下、将来推計)では、半導体産業の集積により転入者が大きく増加するため、令和 12 年(2030 年)に人口 10 万人を突破すると予想しています。また、前回推計では、令和 5 年(2023 年)から自然減(死亡数が出生数を上回る)による人口減少が進行すると予想していましたが、今回の将来推計では、人口のピークを迎える令和 18 年(2036 年)まで人口増加が継続する推計となります。

本市は、平均年齢が低く若年層の多さが特徴のまちですが、近年は本市でも少子高齢化の傾向が表れはじめています。しかしながら、半導体産業の労働力人口が転入してくることで、令和 22 年(2040 年)時点においても全国・北海道と比べて 15～64 歳の人口割合は高くなります。

図 17【Rapidus 進出を踏まえた千歳市の人口推計】



※本市作成